

炭竈里すみかまのさと〔大原郷おほはらにあり、むかし小野山をのにて炭をやきしより名とす〕

新続古 よそにてもさびしとはしれ大原おほはらや煙をたへぬ炭がまのさと 土御門院

同 炭がまの煙の里の名にたて、よそにもしるきをの、山下 藤原伊定

波那志里杜はなしりのもり〔大原おほはらの里南の端、路傍の右にあり〕

源太夫社 〔杜の中にあり、江文の末社なり。此社の北に江文の一鳥居あり〕

上野うへの〔大原郷おほはらの内戸寺村うちとてらの北に上野村あり〕

万代 をのづから過がてにする大原おほはらのうへ野の萩にすがる鳴なり 仲実

十禅寺じふぜんじ 〔戸寺村とてらのひがし三町許山腹にあり、巡り深林にして中に草堂ありて、本尊には薬師仏を安置す、伝教大師でんけう

の作、立像四尺許、靈験いちじるくして、殊に眼疾に奇瑞あり。草堂無住にして村中よりこれを護る〕

龍女山撰取院りうによさんせつしゆあん〔大長瀬村おほながせにあり、一名蛇道心寺じやだうしんじといふ、浄土宗〕

本尊阿弥陀仏しやうとく〔聖徳太子しやうとくの作、坐像三尺二寸〕

開基浄住法師しやうぢゆう〔此法師俗人たりし時、専ら色欲を好み、妻の妹に密通しぬ。妻これを嫉といへども制するに力なし、終に苦惱して死す。其怨霊たちまち小蛇となつて夫が首に纏ふ、取すて殺せども寝中に現じて又もとのごとし。こゝに於て罪業の深きを悟つて、剃髮染衣の身となり、此地に蟄居して、もつぱら念仏を修す。されども蛇は常に首を去ず、いよく自障懺悔しぬれば、老年におよんで蛇首を脱して成仏すと夢見る。これ滅罪歡喜して、益念仏怠らず、往生素懷を遂にける。已上縁起の大意〕

惟喬親王旧跡これたかしんわうきうせき〔上野村南うへのの方田の字に御所内ごしよのうちといふあり、伝云、惟喬親王閑居これたかの所なりとぞ。又同所これたかひがしの山

際ほんすぎに一本杉といふ所あり、其地に古き石塔あり、土人云、惟喬親王の御墓なりと云伝ふ〕

これたかのみこのもとにさしかりかよひけるを、かしらおろしてを

のといふ所に侍りけるに、正月にとぶらはんとてまかりたりけるに、

ひえの山の麓なりければ、雪いとふかゝりけり、しるてかの室にま

かりいたりて、

古 今 忘れては夢かとぞ思ふおもひきや雪ふみ分て君をみんとは 業 平

雪のふる日小野にまかりて侍りしに、これたか惟喬の御子の御跡いづくにかなと人の申侍しに、

続草菴 此里はいづくも竹の園生にて雪に昔の跡もしられず 頓 阿

小野神社をの、じんじや〔神名帳曰、小野神社二座、愛宕郡おたぎのこほり。今詳ならず〕

敏行朝臣家としゆきあそんのいへ〔小野をのにありし由、続古今集にのせたり〕

亭子院ていしゐんとしゆき敏行朝臣のをの、家に梅の花御覽じにわたらせ給ふたりける時読侍ける、

続 古 思ひ出てみにこざりせは梅の花誰に昔の香をうつさまし 伊 勢

勝手社かつてのやしろ〔大原浄蓮華院西山の麓にあり。祭神大和国吉野山勝手明神なり。良忍上人りやうにん吉野金峯山よしのきんぶに詣し、勝手社に法

施し奉るに、明神童子について託宣あり、大原山に至つて上人の弘法を守護すべしと、此ゆへにこゝに上人勸請しける

となん